

午後7時00分開会

第2回トップアスリートのまち・北区推進協議会

令和5年6月21日

【齊藤座長】

それでは時間になりましたので、ただいまから第2回トップアスリートのまち北区推進協議会をですね、開催したいと思います。

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

座長を務めます、東洋大の齊藤でございます。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

まず会議に先立ちまして、進行について説明させていただきますが、この会議の議事録の作成のためにですね、音声を録音させていただきます。このことをご了承いただければと思います。

また、ご発言の際には、マイクの方お持ちいたしますので、そちらの方の使用をどうぞお願いいたします。

加えてですね、会議の活動記録作成のため写真撮影等々をいたしますので、こちらのほうもご了承ください。

なお、この会議は公開での開催というふうになりますので、傍聴を希望される方が会場に入ることとともに、議事録をですね、北区ホームページに公開させていただきますので、ご了解いただければというふうに思います。

それでは次にですね、本日の資料の確認を事務局の方から、どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

はい。では、事務局から資料の配付確認をさせていただきます。

まず、次第がございまして、続きまして構成員名簿。それから資料1ですね、事業報告及び今後の予定について。

資料2から4が協議事項資料、資料5、6が情報提供資料でございます。

続きまして、団体さんからの配布資料ということで、東洋大学さんから THE NORTH TOKYO DERBY と書かれているチラシ。

観光協会さんから、七夕星空コンサートのチラシ。Johoku Athletes Club さん

からパンフレットですね。それからコミスポ滝野川さんから三種類のチラシが
ございます。

不足ございませんでしょうか。ありがとうございます。

【齊藤座長】

はい、ありがとうございます。

それでは議題に入る前に、改めまして私の方から一言ご挨拶を申し上げたいと
思います。

前回(令和4年6月開催)の会議の時には、私の立場はライフデザイン学部健康
スポーツ学科という学科だったんですが、ご存知の通りこの4月にですね、東
洋大学に健康スポーツ科学部という学部が立ち上がりました。

この中にもですね、開学式であるとか、こけら落とし等々にですね、ご参加いた
だいた方々がいらっしゃると思います。この場を借りて厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

私が言うのもなにかおかしいんですけど、立派な施設(東洋大学赤羽台キャンパ
ス HELSPO HUB-3)が建ちました。その中でも観客が入るようなアリーナができ
ましたので、先日来様々な大会が行われています。剣道の関東大会であるとかで
すね、あとは先日は卓球のTリーグのノジマカップが行われて、もう1000名以
上の方々がご来場いただくというような、そういったことが行われています。
今後ですね、こういったいわゆるプロの競技等々が観られるような環境になり
ましたので、そういった意味でも、それからその場所を通じてですね、学生と
いうリソースを使いながら、様々な地域の方々にスポーツで還元をしていくこ
とができるかなと思いますので、ますますトップアスリーのまちに貢献でき
るかなというふうに考えてございますので、そちらの方もどうぞご理解いた
ければというふうに思います。よろしくどうぞお願いいたします。

それでは会議に入っていきますが、まず冒頭にですね、この会の副座長なんです
けれども、町会自治会連合会の会長さんの方にお問い合わせしてありましたが、ちょ
うど任期の変わる時期ということで、まだ後任の方決まってございませんので、今
日は空席という形にさせていただきたいということでございます。

あわせてですね、今日隣に座っていますけれども、私どもの大学の講師の谷塚先
生、前回オブザーバーという形で参加をさせていただいておりましたけれども、今
回からはメンバーということで、参加します。ご了解いただければというふうに
思います。

またですね、以前には(東京ヴェルディとして)ご参加いただいていたんですが、
北区ゆかりのアスリートを抱える城北信用金庫のですね、常田幸良さんには
ですね、今回オブザーバーという形でご出席いただくということで、心強く感じ

ておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

さて年度が変わりましたので、新しく委員になられた方もいらっしゃいます。

ここで委員の皆様から一言ご挨拶をちょうだいしようと思います。

ではまずはですね、私の右側に座られている北区スポーツ大使の高橋委員さんの方から順にですね、マイクをまわしていきますので、一言ずつお願いいたします。

【高橋委員】

皆さんこんばんは。北区のスポーツ大使をしております高橋です。

よろしく願いいたします。

【中村委員】

こんばんは。ハイパフォーマンススポーツセンター運営部の中村と申します。

どうぞよろしく願い申し上げます。

【田草川委員】

失礼いたします。北区体育協会の田草川と申します。

体育協会ようやくですね、コロナ禍から少し抜け出して全体的に事業ができるような状況になってきております。今年もどうぞよろしく願いをいたします。

【宮坂委員】

こんばんは。総合型地域スポーツクラブ特定非営利活動法人れっどしゃつふるの副理事長をしております宮坂と申します。よろしく願いいたします。

【仲本氏】

地域総合型スポーツクラブコムスポたきのがわの、本来であれば、本日大竹理事長が出席ですが、所用がありまして副理事長の仲本の方が出席させていただきます。よろしく願いいたします。

【葛西委員】

皆さんこんばんは。北区スポーツ推進委員協議会の葛西と申します。本年度もよろしく願いいたします。

【太田委員】

皆さんこんばんは。東京ヴェルディで女子事業推進室のディレクターをさせていただいてます太田と申します。日頃より北区の皆様には大変ご支援等いただ

きありがとうございます。この後、女子のワールドカップも始まりますので、ぜひ皆さんには引き続きあたたかいご声援よろしく申し上げます。今日はよろしく申し上げます。

【中嶋委員】

こんばんは。北区役所の政策経営部長の中嶋と申します。引き続きよろしく申し上げます。

【小野村委員】

こんばんは。北区教育振興部長の小野村と申します。
このメンバーの皆様方にも、ヴェルディさん、また東洋大学さん様々な学校教育現場でお世話になってございます。引き続きどうぞよろしくお願いいいたします。

【松田委員】

こんばんは。私、地域振興部長の松田でございます。この会議の事務局を担っているトップアスリートのまち推進係の係も所管をしているところの部長でございます。今回この4月に区長選があつて、新しい区長が就任されましたけれども、区長が掲げる150の政策についても、スポーツがかなり大きなウエートが占めていたことで、所管課としても気を引き締めて、皆さんとともに進んでいかなければ達成できないような目標となっておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

【常田氏】

はい。皆さんこんばんは。先ほどご紹介いただきました常田でございます。城北信用金庫が運営しておりますJohoku Athletes Clubを代表しております、今日参加させていただきました。オブザーバーとして本日参加させていただきます。どうぞ皆さんよろしく申し上げます。

【事務局菊池】

皆さんこんばんは。改めまして、トップアスリートのまち・北区推進協議会事務局を務めさせていただいております。スポーツ推進課長の菊池でございます。今年の4月から配属されております。
北区はナショナルトレーニングセンターをはじめ、齊藤座長が学部長を務めま、東洋大学健康スポーツ科学部が赤羽台に新設されるなど、トップアスリートの方や健康スポーツを学ぼうという方が集結する町でもございます。
東京2020大会のレガシーの継承発展を目指しまして、この特色のあるトップア

スリートのまちを推進していくために、関係団体様、機関の皆様と一層連携を図って参りまして、事務局としても一生懸命頑張ってお参りますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

【事務局白川】

こんばんは。トップアスリートのまち推進係長の白川と申します。
どうぞよろしくお願ひいたします。1年前まで旧オリパラ課に在籍しておりました、皆様には大変お世話になってきたところですが、引き続きお世話になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局藤原】

同じくトップアスリートのまち推進係で事務局を担当します藤原と申します。
よろしくお願ひします。

【森委員】

皆様こんばんは。私は12校ある中学校PTAの、今年の連合会長をやっています森と申します。個人的にはスポーツ推進委員もやらせていただいております。どうぞよろしくお願ひします。

【守谷委員】

こんばんは。
北区立中学校体育会を代表して参りました十条富士見中学校校長の守谷でございます。昨年度に引き続き、でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【中村委員】

皆様こんばんは。北区立小学校体育会を代表して参りました。北区立豊川小学校校長の中村と申します。どうぞよろしくお願ひします。明後日は早速ヴェルディさんに本校へいらしていただきまして、いろいろ活動させていただくということで、大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【石山委員】

皆さんこんばんは。北区文化振興財団事務局長石山でございます。文化の面からスポーツを支える、スポーツと文化、非常に親和性の高いものでございますので、これからも一緒にやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【中林氏】

皆さんこんばんは。東京北区観光協会の中林と申します。本日は会長の大前が出席予定でございましたが、所用により私が代理で出席させていただいております。

東京北区観光協会なんです、北区の新しい価値をイノベーティブに想像するを掲げて、観光を切り口とした様々な活動を実施しております。ここ直近ですと、7月29日ですね、150周年飛鳥山公園で行われるイベント、これは東京ヴェルディ様のご協力のもとですね、開催をしていきたいと思っております。

またチラシで配らせていただいた7月2日ですね、七夕星空コンサートが実施されますので、ぜひこちらもですね、お時間ありましたらご来場いただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

【越野委員】

東京商工会議所北支部の会長を務めております、越野でございます。本当にこのスポーツのことを議論するのはわくわくするような思いがいたします。

東洋大学の新学部キャンパスも、私も拝見させていただきましたけれども、わくわくするような施設でございますし、北区につくっていただきました、天狗の鼻というふうに通称言われてると思うんですが、豊島のほうの陸上競技場も、これもなかなかすばらしい施設、いろんな面ですね。

体育施設、スポーツ施設は、区有の施設も実は充実をしている、1人当たりの施設数としては非常に密度が高いというふうに言われておりますが、柔軟な発想で皆さんでいろんな意味で盛り上げていけるような、そんな会議になればと思っております。よろしくお願いいいたします。

【成川委員】

北区商店街連合会の成川でございます。昨日やっと会長になったばかりで、右も左も今日の会もどういう会だかわからなくて、今、越野会長にこの会について説明をいただいたところなんで、これから皆さんのご意見いただきまして、検討させていただきたいと思っております。よろしくどうぞ申し上げます。

【谷塚委員】

東洋大学の谷塚と申します。今回から参加させていただきます。引き続きよろしくお願いいいたします。

【齊藤座長】

これで一周しましたね。はい。ありがとうございます。

先日、新しい区長さんのところにご挨拶に行ったんですけれども、この後ちょっと紹介します、先ほど出ていましたが、THE NORTH TOKYO DERBY というバスケットの交流戦ですけれども、それにもお越しいただけるという返事をいただきまして、私ユニフォーム着用で行こうかしらなんていう、そういうノリですね、ご本人もバスケットをやられていたということで、スポーツウーマンということですので、何かこうスポーツに関する、スポーツ振興に関する追い風がかなり吹いてるなということで、心強く感じております。

そういう意味で今回もですね、越野会長さんのお話ありましたが、ぜひ実のある会議にしたいなというふうに感じておりますのでよろしくご協力ください。

では議題の方に入って参ります。本日は報告事項と協議事項と情報提供等々というふうになっております。順番に参ります。

まずは、3の報告事項、事業報告及び今後の予定についてということで、こちらの方は事務局からご説明お願いいたします。

【事務局】

それでは、事務局から報告事項について説明させていただきます。

お手元の資料1をご覧ください。

前回、令和4年6月に開催しました第1回トップアスリートのまち・北区推進協議会以降に実施しました、トップアスリートのまち北区推進事業の報告と今後の予定でございます。

(1) 北区主催事業としまして、資料1にお示しの①から③の三つの事業を実施しております。①と②は、北区をホームタウンとして活躍しております女子プロサッカーチームであります、日テレ・東京ヴェルディベレーザ関連の事業でございます。昨年度、北区スポーツ大使を委嘱させていただきました。同チームによる小学校訪問交流事業を今年2月に味の素フィールド西ヶ丘近くに位置します、西ヶ丘小学校において実施いたしました。今年度はさらに訪問する学校をふやし、子供たちとの交流を広げていく予定でございます。

③は、北区スポーツコンダクター制度の事業でございます。

令和4年度は小中学校10校で、本日出席していただいております、北区スポーツ大使でもあります高橋勇市選手をはじめ、北区スポーツ大使や北区ゆかりのアスリートの派遣を行いまして、講演会やスポーツ指導を実施しました。

なお、こちらの事業ですが、コンダクターの派遣申請は随時受け付けておりますので、ご興味がありましたらスポーツ推進課までご連絡いただければと存じます。

続きまして、(2) 連携事業でございます。こちらもお示しの①から④の事業を実施してございます。東洋大学や卓球のTリーグが主催する事業の後援や、それに

対する区民招待であるとか、広報等を実施いたしております。

①の東洋大学との連携では、座長の齊藤学部長のゼミ所属の学生の皆さんが、トップアスリートのまち北区と健康スポーツの推進を目的に企画と一緒に検討しました。アスリートのインタビューをSNS等で発信するなどの企画を行ってございます。こちらの事業は、昨年度から実施しておりまして、令和5年度も引き続き活動していく予定でございます。

3の今後の予定でございます。

(1) 来月7月16日には、先ほどもお話がございましたが、東洋大学の赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 アリーナにおきまして、バスケットボールの地域対抗戦、THE NORTH TOKYO DERBY を開催いたします。こちらにつきましては、東洋大学の谷塚先生が動画の準備をさせていただいておりますので、後程ご紹介させていただければと思います。

次に、(2) としまして、来年のパリオリンピック選考会も兼ねた 2023 全農 CUP 東京大会が、来月22日から23日に、(1) と同じく、東洋大学赤羽台キャンパス HUB-3 アリーナにて開催されます。先日開催されましたノジマカップ同様、区民の観戦招待を行う予定でございます。

続いて、(3) でございます。昨年度から工事を進めておりました、豊島5丁目グリーンスポーツ広場が令和5年9月にオープンとなります。北区初となります、400メートルトラック8レーン、タータン舗装を備えた陸上競技場及びフィールド部分は多目的広場としまして、少年野球、サッカー、ラグビーなどでも利用可能となっております。陸上競技場の東側には少年野球場1面を併設しているスポーツ広場でございます。こちらは9月のオープンに先立ちまして、オープニングセレモニーや、北区スポーツ大使や東洋大学陸上部等にご協力いただき、記念イベントの開催を予定してございます。

続きまして(4) でございます。

北区スポーツボランティアについては、令和5年4月1日現在、179名が登録をしております。東京2020大会の後ですね、活躍の場が減少していることから、今年はボランティアの活動が広がるような事業を検討しているところでございます。

以上報告事項及び今後の事業予定についてご説明いたしました。

それでは、先ほどご案内しました7月16日に開催されますザノーストーキョーダービーについて、東洋大学の谷塚先生より詳細のご説明があります。

谷塚先生よろしく願いいたします。

【谷塚委員】

すいません、改めまして谷塚です。簡単にご説明させていただきます。今日チラ

シを配らせていただいております。ただもうすでに北区ニュースのほうでは情報開示しておりますので、そちらの方が全然早いかなと思っております。

裏面見ていただくとわかるんですが、うちの東洋大学とですね、すぐお隣にある東京成徳大学の男子バスケットボール部の試合を、7月16日に行う予定です。これはただ単に練習試合といえば練習試合なんですけど、それをですね、我々の学生主体となってですね、約1000人規模のですね、地域の子供たち、地域住民、さらには学生を集めてですね、一大のお祭りにしようというようなことで考えております。これが一応ロゴということで、これも実はうちの大学のゼミ生が考えたロゴになっております。

で、今回我々が主催ということで共催として城北信用金庫様、株式会社五十嵐商会様にいろいろご協力いただきました。

その中で、今回の試合についてのもので、プロモーションビデオを城北信用金庫さんに作っていただきましたので、ちょっと今から流させていただければと思います。こちらです。

【動画紹介】

はい、ということで今後ですね、この動画をいろんなところで流していきたいなというふうに思っております。特に地域の皆様、地域の子供たち、ぜひですね、7月16日に東洋大学のアリーナに来ていただいて、こんなに身近にこんなにすごいお兄ちゃんたちがバスケットを真剣にやってるっていう姿をですね。ぜひ見ていただきたいなと。そして、このTHE NORTH TOKYO DERBY、ノーストーカーイワゆる東京の北のことです。ダービーというのはサッカーやってる方だったらご存知だと思いますが、要は隣町同士の戦いってことですよ。

今までは多分、大学スポーツってのは大学対大学ということであまり地域っていうのは関係のない中で、どこ対どこみたいなのがあったと思うんですが、我々はむしろクローズアップは地域対地域、そこにちょうどある東洋大学と東京成徳大学が地域の応援を受けて戦うということをやっている。それを基本的に学生たちが中心にいろいろ企画イベントをして、当然うちの大学もそうですが、北区の企業様、あとは北区にもご協力いただいてですね、一つの大きなお祭りにしていこうと。できればこれ来年以降、毎年ですね、やっていきたい。

そしてこの毎年例えば7月にはですね、これが東洋大学の赤羽台キャンパスでやるんだと。それが北区の皆さんが、楽しみにしていただけるようなお祭りイベントにしていきたいなというふうに思っておりますので、チラシの方、僕もなかなかそういう世代ではないんですが、学生たちからするとそのQRコードを讀んでいただくと、すべて申し込みができるというような時代になっておりますので、ぜひ皆さんのスマホでQRコード讀んでいただいてですね、お時間ある方は、来ていただければなど。基本的には申し込み制になっておりますので、申し込み登

録をしていただければなというふうに思います。
よろしく申し上げます。

【齊藤座長】

いいですね。名前がいいですね。THE NORTH TOKYO DERBY っていうね。
さすがだなと思って見てました。大学のスポーツの試みとしても、おそらく日本初だと思います。実はスポーツ庁はこういうことを進めてるんですけども、なかなかできないという。あと基本的にはスポーツ系の大学っていうのは郊外にあるものですから、なかなかお客さんが集まらないということもありますし、そういった意味では赤羽台キャンパスは駅（赤羽駅）から歩いてすぐのところにありますので、たくさんのお客さんを集めながらできるかなと。
もうすでに何か、先ほど聞いたんですが、下手するとキャパ超えそうかもしれない。そういう形で進んでおります。ぜひ足を運んでいただければというふうに思います。あと今後の予定というところで幾つかあった中で、ここにはまだ書いてないんですが、実は同じく東洋大のこのアリーナで12月の末にですね、バスケットボールのウインターカップですね、いわゆる高校選手権が開催される予定です。今までは東京体育館でやっていたんですけども、聞くところによると決勝と準決勝はやっぱり東京体育館だということらしいんですが、それ以外はあそこの体育館で、アリーナでやるってことが決まっております。
私は勝手な思い込みで、野球をやっている子は甲子園を目指せと。高校でバスケットをやっている子は東洋大学 HELSPO アリーナを目指せというふうになればいいなというふうには考えておるんですが。余計なこと言いました。いろいろ予定をされております。どうでしょうか、今後の予定等々について何かご質問、ご発言ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。

では次に参りたいと思います。

次は協議事項になります。

(1) 2024年のパリオリンピック・パラリンピック競技大会気運醸成について、こちらの方事務局の方から説明願います。

【事務局】

それでは協議事項についてご説明させていただきます。今回お示しの協議事項につきましては、スポーツ推進課内で検討した、たたき台となっております。ぜひ委員の皆様のご意見をちょうだいできたらと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず協議事項(1)2024年パリオリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成についてご説明いたします。

資料 2 をご覧ください。

こちらの要旨でございます。

来年の 7 月から 9 月にかけて、2024 年パリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。大会出場を目指します北区ゆかりのアスリート及び東洋大学在学の、特に赤羽台キャンパスの大学のアスリートを活用した事業をオール北区で取り組んでいきまして、区内における大会の気運醸成によるトップアスリートのまち北区の推進や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承・発展を図っていくのが目的でございます。大会の日程は、項番の 2 にお示しの通りでございます。

項番 3 にお示しの参考資料 1 に、北区スポーツ大使及び北区ゆかりのアスリート一覧を添付してございます。後程ご高覧いただければと存じます。

実施事業案を項番 3 に、(1) から (3) にお示ししてございますが、まず、(1) 北区ゆかりのアスリート、スポーツ大使を含む、アスリートの方の情報収集及び発信、応援の企画でございます。パリ大会を目指す北区にゆかりのあるアスリートを発見しまして、大会出場状況など情報収集及び発信を行って参ります。

壮行会等で地元のアスリートを知り、区民が応援する気運を醸成する、というような内容の案となっております。情報収集や発信につきましては、大会情報やアスリート本人の発信、各団体や本協議会の委員の皆様からの情報、区民からの情報提供によりまして、情報収集を行い、区のホームページや SNS 等で発信をいたします。また、応援企画としまして、壮行会の開催や、アスリートのインタビューを実施しまして、広く発信すること、また、区内での応援装飾などを実施することを考えてございます。

続きまして、(2) アスリートによるスポーツ教室、講演会等の実施でございます。北区ゆかりのアスリートを講師に、区内の子供たちをはじめ、団体や企業を対象に、スポーツ教室や講演会等を開催することで、アスリートへの応援の気運醸成等を図るものでございます。例年実施しております、トップアスリート直伝教室での、北区ゆかりのアスリートの活用、北区スポーツコンダクター制度の積極活用、区の後援共催事業におけるアスリートを活用したイベントの実施を検討しております。今後、城北信用金庫の Johoku Athletes Club 所属のアスリートでもあります、フェンシング・サーブルの向江彩伽選手、フェンシング・フルーレの久良知美帆選手、アイスホッケーの永野元佳乃選手、現役を退きましたが、スキーフリースタイルの鈴木沙織さん、カヌースプリントの大村朱澄さんの五名を今後スポーツコンダクターに登録をいたします。

このほかですね、Johoku Athletes Club にはテコンドーの山田美諭選手がおりますが、山田選手はすでにスポーツコンダクター登録をしておりまして、昨年度もスポーツコンダクター派遣事業におきまして、赤羽台の小学校で競技体験と

講演会をしていただいております。

続きまして (3) 北区ゆかりのアスリート応援団 (仮称) でございます。

こちらの結成についてでございます。北区ゆかりのアスリートを応援することで、区全体の地域の連帯感の創出やパリ大会への気運醸成を目指すものでございます。応援団の活動内容としまして団員みずからがアスリートに関する情報発信を行っていくこと、アスリート関連のイベントへの積極的な参加などを考えております。また、応援団員になった場合の特典につきましては、お示しの内容を検討しております。こちらの方ですが、ちょうど昨日サッカーの日本代表の親善試合におきまして、北区ゆかりのアスリートでもあります、ゴールキーパーの中村航輔選手が何度もナイスセーブをするなど、勝利に貢献をしております。今後このような、北区ゆかりのアスリートの情報を積極的に発信していきつつ、応援団結成の気運醸成に繋がっていければと思っております。以上でございます。

【齊藤座長】

どうもありがとうございました。いかがでしょうか。何か、これは協議事項ですので、ぜひご意見等いただければと思いますが、いかがですか。

気運醸成に絡んでは、やっぱりこう、なんででしょうかね。

教室ものとか応援団とかっていうことになってくると思うんですけども。

どうですかね、子供たちを抱える現場の方々で、本日だと、例えば小学校体育会の中村先生。どうですかね、何かこういうようなものを作って欲しい等要望ございますかね。

【中村委員】

昨年度豊川小学校では高橋さんに来ていただきまして、講演会ということで実施をさせていただきました。その時の高橋さんのサイン、今でも校長室のほうに飾ってありまして、今日も子供たちが、「校長先生、僕が一年生の時に、この人来たんだよ。」っていうことで子供たちが今日も話してくれました。

子供たちってそういうプロの選手だったり、有名な著名な努力をされてる選手との関わりっていうのは一生心に残っていくので、まさに今日その話が出たところで今、高橋さんにお会いして、大変ね、私もうれしく思ってるんですけども。時間とタイミングさえあればぜひやりたいなという気持ちはもちろんございます。ただ、学校はなかなかいろいろプログラムが厳しいところがありますので、また明日、明後日のこともお話いたしましたけども、ぜひぜひ学校に戻りまして、また小学校の校長会の方、体育会の方でも、この話をいたしまして、少しでも多くの学校に紹介して参りたいと思っております。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。どうでしょうか、PTA という立場でこんな企画どうですかみたいな。どうですか。

【森委員】

そうですね。PTAとして僕らが企画してるのは、先ほどの THE NORTH TOKYO DERBY とかもね、学生が中心になってやってることだったんで、僕らもどっかで保護者として、子供の応援なんですけど、子供がやっぱり主人公になるようなイベントをっていうことで、いろいろ日々悩んでますね。

僕、今、中学生の保護者なんですけど、滝野川地区っていうところにいまして、滝野川小中P連っていう小学校と中学校が合同になって企画をするっていうことをやってるんですけど、合同のテーマってなかなか難しくて。遊びでも何でも、やっぱり世代が違うので、ただ、スポーツってそういう意味ではすごい良くて、今回はですね、卓球をテーマに一つのイベントをやります。それは小中学生一緒に対しての合同のことができるんですけど。小中という幅広い人を対象にしてもスポーツっていうのは、きっかけになっていいなというふうにはまず思ってます。これはずっとやっていきたいなと思ってることなんですけれども、初めての試みとしては、中学校は卓球部がありますよね。卓球イベントをコロナもあって、イベントを1時間交代で3部制にする予定です。1部2部は小学生向けの時間にしてまして、3部目は中学生のための時間なんですけど、その1部2部に対して、中学生がボランティアで手伝って欲しいっていうふうな投げかけをしようと思ってます。今から募集をするんですけども。そんな形で、いつも自信を持ってやっている卓球を小学生に教える立場っていうのを今回作ってあげたいなど。

それは僕らにとってもスタッフの1人としてすごい役にも立ちますし、そんなことを夏休み、やりたいと思ってます。

僕らからの発表もそうなんですけれども、今のお話聞いていて思ったのは、やっぱり自分らの世代ではオリンピックが学校に来るなんて考えられない。来てたんだよ、こないだ来たんだよって言うだけで何か興奮しちゃうようなものなので、機会があれば、小中学校の方にお呼びいただき、来ていただいて、子供たちに苦労話とか、成功体験とか、聞かせてもらいたいなというふうには思っております。

【齊藤座長】

ありがとうございます。やっぱり子供たちに本物を見せるっていうことは重要

ですよね。これはオリンピックだけじゃなくて、パラリンピアンの方もそうですけれども。何年か前になります。隣にいらっしゃる高橋さんにうちの大学に来てもらって、伴走のデモンストレーションをやってもらったんですけども。スポーツをやっている大学生ですら、このブラインドマラソンの伴走がすごいってことに気が付いて、もちろんメインで走る方もそうですけれども。そういうやっぱり感動を覚えさせるってことが重要だと思いますし、特に子供たちですよね。

私、個人的な話ですけど、私が中学校の頃ちょうどミュンヘンオリンピックで、その前に全日本のバレーボールのチームが、函館の体育館で合宿をしていて、それを私、見たんですよ。代表選手のスパイクを見た瞬間に、電気が走ってですね。それから私も中学校バレー部にのめりこむんですけども。そういうやっぱり子供達に本物を見せてあげる、せっかくアスリートがいるんであればという。ただ、お互いやっぱりスケジューリングがそれぞれ忙しい中でやんなきゃいけないので、それをうまく区の方にも入っていただきながら、なるべくたくさんの子供たちに本物を見せるってことをやっていただければなというふうに思いますよね。

その他いかがですか。よろしいですか。はい、では、この協議事項ここまでにしたいと思います。

続いて(2)のハンガリーとの交流について、こちらの方を事務局の方からお願いいたします。

【事務局】

では続きまして、協議事項(2)のハンガリーとの交流事業についてご説明いたします。こちらは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプを北区内で実施いたしました。ハンガリーの柔道、フェンシングの選手団との交流事業でございます。東京大会後もレガシーの継承発展の一つとして実施をしているものでございます。昨年度は柔道のグランドスラム大会で柔道選手団が来日の予定でございましたが、日本がちょうど12月ぐらいから新型コロナウイルスの感染拡大となってしまったために、ハンガリー選手団自体が大会不参加となりまして、来日がかなわず交流することができませんでした。

今年度はですね、先月引退を発表しましたが、東京大会の女子柔道の代表選手だったカラカシュ選手の、来日の機をとらえまして、東京大会時に交流を行った学校でありますとか、柔道教室等の交流事業を実施する予定でございます。

また、今年12月には柔道のグランドスラム大会出場のため、選手団が来日をする予定でございます。大会後に、交流事業についても検討しているところでございます。こちらハンガリーとの交流事業ですが、今後、幅広く区民と交流させる

ためにはどのような内容の事業が良いか検討が必要であると思っております。そういったところが課題だと思っておりますので、この協議会の中でも、こういう方法があるんじゃないかとか、そういったようなご意見がもしありましたら、お寄せいただけたらと思います。

資料の4のその他といたしまして、フェシングサーブル競技の個人戦ですね、東京大会を含め3個の金メダルを獲得しました、シラギ・アーロン選手のドキュメンタリー映画が公開されております。東京におきましては、今週の金曜日の公開となっておりますが、もしご興味がある方は、ぜひ見に行ってくださいと存じます。ハンガリーとの交流につきましては以上でございます。はい。ありがとうございます。

【齊藤座長】

これに関してはどうでしょう。ハンガリーといえば越野さん。

【越野委員】

はい、ありがとうございます。ぜひちょっとこれ、この映画はお昼なんで、ちょっと行ってこようかなと思ってたんですけど。

で、ハンガリーなんですけどこれ他の交流もそうなんですけど、やっぱり相変わらず、ちょっと情報発信が遅いんじゃないかなっていう気がしてですね。明日って知らせて交流してって言われてもどうにもならないんで。ただ、例えば、先ほどのフェンシングなんかでも、すごくいい選手の北区ゆかりの方がいらっしゃるんだから、思い切ってこれの上映会みたいのを北区でやるぐらいのこともやってもいいんじゃないかと思うんですよね。やっぱりオリンピックの気運醸成と、それからハンガリーとの交流等をダブルというような感じで。

いつも言いますが、それでね、北とぴあで上映会やって帰りに QUAD 17（北とぴあ 17階レストラン）でハンガリー料理食べて帰ってもらうとかですね、何かそういうダブルトリプル企画をですね、ぜひどんどん考えてやっていくってことだから。会議で交流しましょうって言っても全然交流にならないんで。やっぱり、どんどんそういうのを手を打っていくってことだと思うんですよ。

さっきのすばらしいバスケットの THE NORTH TOKYO DERBY の映像がありましたけれども。もう、あんなのなんか本当に、各小学校中学校でコマーシャルを流すように流してもらうとかですね。何かやるだけでも、何だこれほど、何をやるんだって多分子供たちも思いますよ。それだけでもすごい興味が出る。もう人数も大分埋まってるようなんで、宣伝っていうか、来てもらうっていうことよりも、もう来れないんだけどそういうのをやったんだと、次は行きたいなっていう

ふうに思わせるとかですね。何か要はぎりぎり定員まで埋まればいいのか、そういう発想ではなくて、もっと要するに定員の十倍、何十倍の人たちに対してそれを知らせていくっていうのが、少なくとも今までの、北区の行政のやり方としてはないんですよ。極端なこと言えば何人お客さんが来るかなんてことは何も考えていないで、要するに事業がそこで何か成立すればいいみたいな部分がありましたから。やっぱり是非そういうところをこう、うん。先ほど、体制の変化とかいろいろお話がありましたけれども、是非そういうふうにやっていただきたいなと思います。

パリオリンピックなんかね、パブリックビューイングの企画だって、東京都から補助をもらえないのかもしれないけど、今回は。何かそういうのだって企画したっていいのかもしれないし。パリ大会に向けてもう準備を始めていい。気運醸成でどうでしょうか、1年かけて、何か考えましょうなんていう時間的なタイミングでは全くないですよ。もう要するに何をやるか決まって、パブリックビューイングだってお金のかかることです。簡単ではないと思いますけれども、東京オリンピックでできなかったことを何かそういうのもできないかなど。どうせ競技場にはあのときだってチケット買えなくて行けなかったんだから、パリも東京も同じじゃないですか、やってることは。だから、ぜひやったらいいんじゃないかなという感じがします。はい。ハンガリーから離れちゃいました。すいません。

【齊藤座長】

はい、ありがとうございます。冒頭に話がありましたけれども、フェイスブックを通じてハンガリーに関する情報がたまに流れてきて、私もフォローしていて。必ずシェアするようにしてるんですけども。こういった情報はやっぱりこう決まった段階ですぐ出していくというようなそういう動きが必要ですね。その辺お願いしたいなと思ってます。

あと、国際系のこういった交流事業に関しては、ぜひ私ども大学の方にも情報いただきまして、実は国際交流が必修になってるんですよ。学生の、これはもう教員の方にも案内してあってですね。

もし関わられるようなら関わってくださいって話してますので、ぜひ早めの情報いただければというふうに思いますのでよろしくどうぞお願いいたします。

【越野委員】

それでちょっと一言。

【齊藤座長】

はい。
お願いします。

【越野委員】

いや僕、あんまりその大学の余計なことを言っちゃいけないなと思って言わなかったんですけど、先生に見せていただいた柔道場（東洋大学赤羽台キャンパス）がですね、これ国際規格のオレンジ色と黄色に塗り上げられたオリンピックと全く同じ仕様なんですよ。だから今度のカラカシュ選手が来て子供たちと交流っていうのも、滝野川体育館でやるのもいいんだけど。これはね、本当にオリンピックの舞台と全く同じところに子供たちが立てるので、大学でもしご許可をいただけるんだったらね、これは僕は北区側から、お願いに上がってもいいんじゃないかなっていうふうに、そのときに見たときにね、思ったんですよ。だからこれはちょっとお願いしてみたらいいかなというふうに思います。

【齊藤座長】

はい。決して隠しておりませんので、お使いいただければと思います。よろしくお願いします。その他どうでしょうかね。ではこの件に関してはこれまでにしたいと思います。ありがとうございます。それでは（3）にあります女子サッカーワールドカップ気運醸成について、こちらの方も事務局から説明願います。

【事務局】

はい。先ほどのハンガリーとの交流につきましては、たくさんのご意見いただきましてありがとうございます。いただいたご意見の方は、積極的に取り入れられるように、こちらの方も動いて参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

では、協議事項（3）の女子ワールドカップへの気運醸成になります。こちら資料4の方をご覧ください。こちらの方ですね、いよいよ来月の7月20日から、FIFA女子ワールドカップが開催されますが、日本代表の選手にはですね、北区スポーツ大使でもあります日テレ・東京ヴェルディベレーザから田中桃子選手、植木理子選手、藤野あおば選手の3人が代表メンバーに選出されたことでもございまして、北区全体で盛り上がることで、応援の気運醸成を図りたいと思っております。こちらの取り組み案としましては、パブリックビューイングというのが一番にあるんですけども、こちらですね、まだテレビの放送予定が決まっていなくて課題でございます。放送予定が決まりましたら、資料にお示しの会場で実施を予定しているところでございます。

その他ですね、試合情報の発信ですとか、応援メッセージを選手に届けるなどを検討しております。また、大会終了後には報告会等の方法ですとか、場所等を検討しているところがございます。説明は以上でございます。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。これに関して何かございますか。
どうでしょうか。これはもうサッカーです。
ぜひ、ヴェルディの太田さんの方にですね、一言お願いしたいと思います。

【太田委員】

はい。すいません、今お話あった通りですね、放映権のところは、この女子のワールドカップの中で、何カ国か以外はすべて今決まってない状況でございます。今日もこちらにお邪魔する前にですね、ちょっと JFA（日本サッカー協会）の方とも話をしながら聞いてまして、どういうふうな状況になってるんですかというふうなところでお尋ねしたところ、やはり今現状、ちょっと放映権のところは、どこも決まっていないというふうなところで、お話をいただいているような状況でございます。ただ本当に、今回選ばれたこの3選手ですね、今本当になでしこジャパンの方で活躍が期待されている日本を代表する選手でもありますし、ぜひ今、北区さんからもですね、いろいろなご相談をいただいている中で我々もできることをですね、最大限やらさせていただきながら皆さんと一緒に、盛り上げていければなというふうに考えておりますので、またその辺は連携取りながらというふうなところと、あとは皆さんのお力添えをいただきながら、やらせていただけたらなと思いますので引き続きよろしく申し上げます。以上です。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。常田さん。どうですか何かこう気運醸成のアイデアみたいなもの。

【常田氏】

そうですね、はい。
事務局様の方からのパブリックビューイングというようなアイデア、これ当然、地域を盛り上げる一つの大きな施策でもありますし、またですね、何ていうんでしょうか。放映が決まってないっていうのはもちろんあったんですけども。代表に選ばれてないベレーザの選手もいると思いますので、その選手を活用した地域での交流、いわゆるそのワールドカップを目指す。これから戦っていく日本代表と一緒に応援しようというようなですね、そんな取り組みも一つ考えら

れるのかなというふうにはちょっと感じました。はい。以上です。

【齊藤座長】

ありがとうございます。

なかなかね、気運醸成って難しい部分があるんですけども、女子サッカーに関してはヴェルディさんもありますし、あと本学も実は、女子サッカーの大学のチャンピオンですので、女子サッカーのいろんな気運醸成をするリソースはあるかなっていうふうに思いますので、ぜひその辺をうまく絡めながらっていうところもあるかなというところですかね。はい。基本的にはまだ放映が決まってないというところですのでそれが決まってからという形になろうかと思います。

他何かございますか、皆さんから。特になければ、この件はこれまでにしたいと思います。ありがとうございます。

続いては情報提供になります。

5の(1)になりますが2025年東京デフリンピックの開催について、こちらの方事務局の方からご説明願います。

【事務局】

はい。では情報提供につきまして、私のほうからご説明させていただきます。

資料5をご覧ください。2025年、東京デフリンピックの開催についてということで、2025デフリンピック大会ビジョンという資料を情報提供させていただきます。デフリンピックっていうのは耳の聞こえないアスリートのためのオリンピックで、オリンピックやパラリンピックと同じように4年に一度開催されています。再来年の2025年11月に東京で初めてデフリンピックが開催されることになりました。こちら70から80カ国の地域、各国地域から約3000人の選手が出場を予定されています。まだちょっとパラリンピックほど認知度はないんですけども、北区ゆかりのアスリートにも、北区在住でデフリンピックの陸上の山田真樹選手がいらっしゃいまして、去年区長表敬にもお越しいただいたんですけども、今後山田選手の応援含め、デフリンピックの気運醸成にも取り組んで参りたいと思っております。よろしくお願ひします。

このデフリンピックなんですけれども、昨年ブラジルで開催されたところなんですけど、この時も山田選手はメダル獲得が期待されていたんですけど、新型コロナウイルスの影響によって、大会途中で全競技の日本代表選手が出場辞退となってしまうました。このブラジルの前のトルコの大会ではメダルを取られてる方なので、ぜひ今後応援していきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。続きまして、資料6なんですけれども、こちらが、ホームページを印刷したもので見づらいかもしいないんですけど、NPO法人日本オリンピアズ協会のオリ

ンピアン巡回指導事業のご紹介です。

こちらはですね、北区でJOCとパートナー都市協定を締結してまして、その関係の会議の時に教えていただいたんですが、今、会長がこの4月から、小谷実可子さん、前のシンクロナイズドスイミングでメダルを取られた方、今アーティスティックスイミングと言ってますけれども。小谷実可子さんが会長をされてまして。オリンピックが巡回指導事業に行くっていう、そのままの事業なんですけれども、こちら経費の負担がほとんどその主催者側にはなくて、この協会の方で持っていただけるっていうところで、まだ認知度もあまりないので、希望すれば、かなりの確率で申請が通るということで聞いてます。ただ、残念ながら地方自治体は対象外でして。裏の方にちょっと古いんですけども2019年度の実施状況を簡単に記載しております。事例でいうと、連盟さんや民間の会社、それから総合型のスポーツクラブ等も実施をされてるようですので、もしご興味があれば、ご活用ご検討いただければと思います。情報提供は以上になります。

【齊藤座長】

はい、ありがとうございました。二つまとめて情報提供いただきましたが、何か質問ございますか。特に二つ目の情報提供はこれ有益ですよ。

かなりの確率でオリンピックを呼べるということですので、それぞれ企画をいただきたいなというふうに思いますが。

【松田委員】

よろしいでしょうか。すいません。

【齊藤座長】

はい、お願いいたします。

【松田委員】

他のスポーツ団体にはどうやって情報提供していくか、ここだけで話し合っただけで終わっちゃうとね。うまく伝わらないと、手も上げられないということなっちゃいますけど。

【事務局】

そうですね、今こちらの団体さんの方にも、チラシとか、詳細をもうちょっといただけないかという相談もさせていただいているところですので、そういった情報収集の後ですね、関係団体の方々のネットワークをお借りしながら、周知できればなと思うんですけど、検討していければと思います。

【松田委員】

はい、今チャンスっていうのなら、なるべく早い方がいいかなと思います。
まだ来年度の事業の募集が始まってないので、またそういったところが判明次第、お知らせいたします。

【事務局】

すいません、これ補足になるんですけども、スポーツの教室を実施できる場所の確保というところが条件になってまして。
なかなか区の体育館を優先的に取るっていうことが難しいところもあるかと思
いますので、行政が主催で実施することはできないんですけども、例えば後援
といった形で、区の方で施設の確保であったりとか、参加者の周知であったり
とか、そういった形でご協力できるかと思ひます。
以上です。

【齊藤座長】

これあれですね、来年度の申請が始まったら、タイミングよく申請できそうな団
体さんの方に情報を流していただければということですね。はい。ありがとうご
ざいます。

【越野委員】

これ、体協はどういう対応になってるんですか。

【田草川委員】

はい。今お話を聞いていて、基本的にこちら 33 の連盟がありますので、周知は
もうもちろんできますし、また今後、幾つかの会議がありますので、そういった
ところでですね、これスポーツ推進課とよく話をしてから、周知の方法を考えて
いきたいと思ひてます。詳細についてちょっとわからないところがありました
が、今区の方で、場所の確保をね、できるというような、ちょっと裏付けがあっ
たので、それであれば、かなりやりようがあると思ひます。
私たちだけでなく、今もちろん総合型、2 人代表来ていただけてますけども、
そちらでも可能であるかなというふうに思ひてます。

【越野委員】

いやいや、これ多分隣の宮坂（れっど★しゃっふる）さんね、すぐこれ、このア
ドレスを見てね、これもう申し込み考へると思ひますよ。体協も、それからそ

ちらも。これは別にいろいろ調べなくていいから、このアドレスをメールでもってバーッと流してもらって、こういうのありますよってとりあえず第一報を伝えてもらってね。何か面白そうじゃないって手挙げてきて、いつ頃やりそうだとかって言ったらその辺だったら体育館押さえますよとかね。

【齊藤座長】

はい。よろしくお願ひします。

では、情報提供、ここまでにして、6番目各団体・機関からの報告ということでそれぞれの関係団体から、どうでしょうか。何かありますでしょうか。チラシをお持ちのところあったと思いますがいかがですか。よろしいですか。

【大竹委員】

よろしいですか。

【齊藤座長】

はい、お願ひいたします。

【大竹さん】

コミスポたきのがわと申します。よろしくお願ひします。

通常プログラムはあるんですけども、我々イベントプログラムもありまして、年に1回、フェスという形で、区民の方々に集まっていただいてスポーツを楽しんでいただくというのをやっておりますが、一番近くですと8月の26日、午前中は中学生を対象としたフットサル関係の、体をどう自分で整えていくかという教室と、午後は女性のためのフットサルの大会という二つのイベントを企画してございます。こういう形で少しでもですね、区民の方々に、スポーツをやる機会を今後も増やしていきたいと思っておりますので、どうぞ皆さんもご協力のほどよろしくお願ひします。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。ほかの団体さんの方いかがですか。よろしくどうぞお願ひします。

【中村委員】

ハイパフォーマンススポーツセンターでございますけれども、8月の11、12、13ちょうどこれ3連休だと思うんですけども、ここで我々が所有しております、ナショナルトレーニングセンターイーストですね。

こちらで国の事業と連携ということで子供見学デーっていうものを行います。それぞれですね、各日3回ほど行いまして合計9回、普段は有料なんですけれども、お子さんを連れてきた保護者の方も、無料ということで、各回20名を限度にですね、行う予定でございます。ここ見学コースがございますので、もし、アスリートの方々が練習をしてればですね、そういったものも見学できます。またいろいろなオリンピック・パラリンピックのこともですね、そこで勉強できるということでございますので、皆様の方でご参加いただければありがたいなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。これは、小中学校の方には情報伝わってますか。そんなたくさん集めるという感じではないんですかね。

【中村委員】

本当について今週ですね、ちょっとオープンにしたっていうところでございますので、これからいろいろなところに、発信できればなというふうに思っております。

【事務局】

こちら区のSNSであったりとか、例えば北区ニュースで発信することは大丈夫ですか。

【中村委員】

はい、ありがとうございます。

【齊藤座長】

ぜひ子供たちに行っていただいた方が、立派な施設ですので、目をまん丸くして見てスポーツに興味を持つと思いますので、はい。よろしくどうぞお願いいたします。他ございますか。はい、お願いいたします。

【宮坂委員】

すいません、総合型のれっど★しゃっふるの立場じゃなくてその遡ったご質問でもよろしいでしょうか。

ヴェルディさんにちょっとお聞きしたいんですけども、先ほどの女子ワールドカップの気運醸成っていうところで、放映権が云々とかパブリックビューイン

グっていうのはそれはある程度、いろいろと関門通過しなきゃいけないとは思いますが、例えばこの日テレ・東京ヴェルディベレーザの選手、植木選手、田中選手、藤野選手、これももう代表に選ばれるぐらいだからチームでもレギュラーだと思うんですけど、これを例えば西が丘の試合に、壮行会的にというかです、わざと仕掛けていくっていうんですかね、会場でそういうような試合が終わった後に、セレモニー的なもので、会場に足を運んでもらう仕掛けをつけると。サッカーが好きとか嫌いとかじゃなくて、目の前で見た選手が今後海外でテレビを通してとかいろんな部分で身近さを感じてくると思うんです。

やっぱり子供たちにフォーカスするのはこれから非常に大事だと思ってますし私も異論はないんですけども、やっぱり憧れの存在を作るっていうのが身近にいる、ということが大事だと思う。

で、全体的なこの会議の場が何なんだろうっていうのもこう思いながら見てるんですけど。もちろんスポーツはプレーをする人もいれば、それを見る人もいますが、それを支える人がいるっていう、これが三つ成り立って、すべてで気運が上昇していく。だから、もちろん学校、学校体育、片や社会体育、それから、グラウンドじゃなくて、スタジアム。体育館じゃなくてアリーナっていう、この違いって全然違うと思ってですね。やっぱり東洋大学さんが東洋大学赤羽台体育館ってつけなくて、ちゃんとアリーナってつけてるところにもものすごい意味が含まれてると思いますし。トップアスリートもやっぱりこう見に来る人が多くいるとももちろん、より以上の力、パフォーマンスを発揮するという期待も込めて、やはり支える人たちってファンであったりサポーターであったりっていう、この会議がそういうところにフォーカスをしてどういう戦略を打っていかうかってやっていく会議になったらすばらしいなというふうに思います。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。先ほどの気運醸成の件では、実はこの隣にそういうことを得意とする、うちの谷塚先生がやってるフローだと思ったんですけども。先生どうですかね。

【谷塚委員】

はい。少しだけ厳しいことを言うと、私たちの生活の中でどれだけスポーツのことを気にしている人たちは、多分ここにいらっしゃる、僕も含めて、スポーツに関わってる人が考える以上に少ないと思います。そう考えたときにどうやって気運をあげようかというところで、やっぱりいくつか方法なり戦略を立てないといけないのかなと。

例えば全体的な気運を上げていきたいと思いますとなれば、多分、トップアスリートつ

ていうところにこだわっていると、すごくリーチする幅が狭くなるので、逆に言うとトップアスリートが、一般市民の人たちに何ができるかっていう目線、要はトップアスリートに憧れるっていう人を引っ張るのではなくて、トップアスリートが一般市民に何ができるかっていうこと目線で多分考えていかないといけないのかなっていうのが一つと、あと例えば今回のように、女子サッカーというキーワードが見えているのであれば、北区一般区民というぼやけた言い方ではなく、もっと絞ったところでの北区で女子のサッカーをやっている子供たちっていうところからの切り込み、切り口っていうことを、多分やっていかないといけないのかなというふうに思います。

オリンピックが終わって3ヶ月もすれば、どこのテレビ局ももう、アスリートのことは取り上げませんし、一部野球ぐらいですかね。サッカーですらオリンピック、どこが優勝したのってわからないっていう状況の中で、トップアスリートの会議ではある一方で、トップアスリートと言い続けてる限りリーチする幅が少ない。

だったら目線を多分逆にしないといけないのかなあと個人的には思っておりますので、多分今後、北区の中でトップアスリートを盛り上げようとするのであれば、そういう切り口からの考え方をしたほうが僕はいいのかなというふうに思っております。以上です。

【齊藤座長】

やはり専門家です。はい。こういう的確なアドバイスしてもらえるかなと思います。確かにそうですね。ここを北区一般の人たちっていうのはなくて、やっぱりある程度セグメントして攻めていくっていうところと、あとはスポーツっていうのは意外と関心を持った人が少なくでですね。その人たちに対してそのトップアスリートはどういうようなアプローチができるのかっていう。この二つですかね。はい。ありがとうございます。

【越野委員】

ちょっといいですか。谷塚先生のお話はもう全くその通りだというふうに思う。ですけど、一方で、例えばそれセグメントするじゃないですか。でね今までの話ですよ。今までの役所がやるとですね。これセグメントするとですね、そことかね、交流しないんですよ。

例えばハンガリーのあれはすごくそれなりにしたと思うけど、もっとそういう子たちと交流してますよとかっていうのを、より広げるといってか、ターゲティングをしつつ、情報は、その周りにもまいていくみたいなやり方ってのは当然必要で。

多分、谷塚先生が今取り組まれてる THE NORTH TOKYO DERBY の方も、まずはそういう子供達、バスケットとかしながら、やっぱり我々のような企業だとかそういうところにしていくことによって、みんながそこに目が向いていくという。つまり我々は必ずしもスポーツに興味がなくとも、バスケットボールに興味がなくとも、その地域のイベントとしての面白さを感じたりとか、可能性を感じたりして、それが全体となって気運醸成になるわけですよ。だから、そこをちょっと今の谷塚先生の補足みたいな話になるんだけど、あくまでも競技じゃないんですよ。こういうのって。さっきの宮坂さんのお話もそうだと思うんだけど。ぜひそういうふうに、そこはだからすぐに僕は飯食う話になるんだけど、そこに繋がっていくんだと思うんですね。はい。

【齊藤座長】

はい。ありがとうございます。本来この会議こういうふうな雰囲気がいいですよね。ずっと私も座長なんかをさせていただきながら、行政は必ずこうシナリオなんかを用意していただくんですけども、今日も冒頭部分しか見なくてですね。あとはむしろこういう雰囲気、やっぱこう会話をしながらというか、議論をしながらというか協議をしながらですね、進めていければなというふうには感じます。むしろ今日はいい会だったな、と感じてます。はい。他どうでしょうか。

【森委員】

よろしいですか。その気運醸成の話なんですけど、僕なんか思ったのは、なでしこ小学校ってありますよね。ご存知の方はご存知なんですけど、僕なんか、面白い名前の学校があるなって、地元じゃないものですから。なでしこ小学校さんで、そのなでしこジャパンを応援するっていうのはすごいいいと思うんですよ。なんか女子サッカーをやってる子供たちの縁ができるじゃないですか。ねらったわけじゃないけれども、なでしこ小学校があるわけですから、そこで応援するっていうのは、すごい北区がやるべきことのような気がしています。綺麗な学校ですし、体育館もね、パブリックビューイングするにはすごい学校だと思いますし。何とかね、放映権取れたら、なでしこ小学校も会場にされたら良いかなと思ってます。

【齊藤座長】

いかがですか。

【小野村委員】

教育を管理する立場から、今日は学校長いませんので、私の方で勝手に決めることはできないというのが正直なところでございますけども、ご提案としては学校長にも伝えさせていただきたいと思います。

今日小学校のほうからね、中村先生出ていただいておりますので、代表として、このような話があったこと、今日の話も含めて全体的な話はですね、私も毎月小学校中学校の校長会の役員の先生方との校長園長会の役員会というものを北とぴあですらでやってますので、そういう場でこういう話出ましたよということも含めてですね、冒頭の THE NORTH TOKYO DERBY の話も、私も今日初めて聞いたものですから。ああいう話はですね、やはり中学校の方で非常に関心が高いのかなと思います。中学生本当にバスケットは結構あちこちの学校で部活動もありますし、そういうところの中ではですね、関心高い子もいますし、日曜日ということであればですね、行ける方もいるのかなというところもありますので、そのあたりの PR も含めてやらせていただきたいなと思いますし。

先ほどちょっと出てます女子サッカーの話なんかはですね、これはこれから教育委員会としても考えなくちゃいけない話ですけど、女子サッカーっていうのは部活動にもないという状況です。

一方でご存知の通り国、東京都も地域クラブ活動というものの立ち上げをですね、考えなくちゃいけないというふうに言われておりますので、私もそういうニーズがありながら、単独の学校でできないような活動についてはですね、ぜひ地域の皆様方の方でですね、やっていただくというのも大事かなと思っておりますので。

そのあたりについてはまた別の場でですね、ちょっとご相談をいろいろさせていただきたいなというふうに思っております。ありがとうございました。

【齊藤座長】

ありがとうございました。他はいかがですか。

【太田委員】

はい。すいません、いろいろと女子サッカーのお話をさせていただき本当にありがとうございます。

実際、やはりなかなか女子サッカーがまだまだ知られてないっていうふうなところは僕らも運営してる中で、ものすごく感じていて、ちょっと例で言うとうれしかったのが、6月の3日が WE リーグ最終節だったんですけど。

その前にスタッフ何人かで、西ヶ丘周辺でチラシのポスティングをさせていただいたんですね。で、その時に、実は桐が丘団地にお住まいの 80 代の方が、その日試合に来ていただいたっていうふうなところがありまして。

何で来たんですかっていうのをスタッフが聞いたときに、いやたまたまチラシを見て、ここでやってることはわかってたんだけど、来る機会がなかったから、本当にちょっと来てみたっていうので。そういった我々まだまだ知られてないっていうふうな現状の中で、学校、小学生の、あと地域の方が、やはりベレーザの試合を見に来ていただくきっかけを、ちょっと今後、このワールドカップが終わった後ですね、我々もスタジアムを通じて、北区様に何か還元できるようにやっていきたいなというふうに思っておりますので。

今日残念ながらシーズンがちょうど、ここで終わって、今、絶賛来シーズンに向けての選手契約中の関係もあってですね、チラシだとかを用意できなかったっていうのが現状あるんですけども、またこういう機会の時にですね、いろいろ僕の方も情報発信させていただいたりとか、ぜひ招待のチラシとかもお持ちさせていただいて、1人でも多くの方がこの中からですね、スタジアムにお越しただけなら大変ありがたいなというふうに思っておりますので、本当に今日こういったお時間いただき本当にありがたいなと思いますので引き続きよろしく願います。ありがとうございます。

【齊藤座長】

確かに今子供たちの話でずっときましたけど、高齢者もね。いいですよ。

ご高齢の方がベレーザのユニフォーム着て、応援してる姿があるとすてきだなと思いますし、そういう意味では北区はご高齢の方、特に桐ヶ丘中心にたくさんいらっしゃいますので、逆に言うと、その高齢の地域の周りをスポーツ施設が取り囲んでるっていう。これもちょっと変わった地域でもあるんで、それを逆手に取ってね、むしろ高齢者の方々にそういうスポーツをお届けするような、そういう雰囲気というのも重要ですよ。ありがとうございます。他いかがですか。よろしいですか。はい。

今日はたくさん意見が出ましたので、事務局も大変だと思いますが、ぜひ皆さんの意見を反映してですね、動いていただければというふうに思います。

では今後のスケジュールをこちらの方事務局から説明いただきます。

【事務局】

はい。様々のご意見、本当にありがとうございます。

まさしくですね、山田区長がおっしゃる通りでスピード感を持って、いろいろ、今日出ました意見をですね、取り入れながら、様々な事業の方取り組んでいきたいと思っております。本当にありがとうございます。

では今後のスケジュールでございます。

本協議会につきましては、次回開催は11月頃を予定しております。

詳細が決定しましたらまた事務局よりご連絡させていただきますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、情報提供でございますとか、事務連絡等は、随時事務局の方から連絡をさせていただきます。委員の皆様からも何か情報がございましたら、ぜひ事務局までご連絡いただければと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

【齊藤座長】

はい、ありがとうございます。では、全体通じて何かございますでしょうか。

【松田委員】

皆さん、このメンバーの方のメールアドレスとかってというのは、もう押さえてありますか。

【事務局】

はい。

【松田委員】

そしたら新しい情報が入ったら、その都度皆さんにお渡しさせていただいてよろしいですかね。

そのようにいたしますので、それもスピード感を持って。

毎月、会を開いてないですから、どんどん出さないと賞味期限切れになってしまうということもあります。そのようにさせていただきたいと思います。

【齊藤座長】

そうですね。ぜひお願いします。メルマガ的な、トップアスリーのこの協議会のメンバーみたいなことになるとは思いますけど。お願いいたします。

【越野委員】

ちょっとどうせやっていたら、メーリングリストみたいにしていただいて、逆に各団体から、役所からいただくばかりじゃなくて、各団体からもそこに載せられるような感じにさせていただいて、相互でできるようにしていただいた方がいいと思うんですね。すいません。ご検討ください。

【事務局】

はい。検討いたします。

【齊藤座長】

他ございますか。よろしいですか。

はい。ではこれで第 2 回トップアスリーのまち・北区推進協議会を終了したいと思います。ありがとうございました。